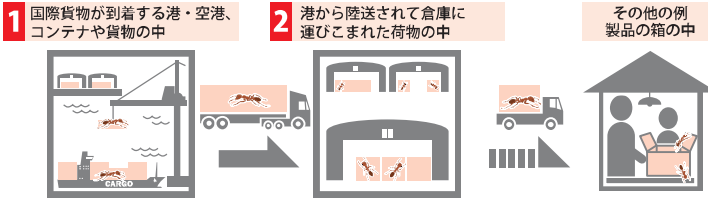
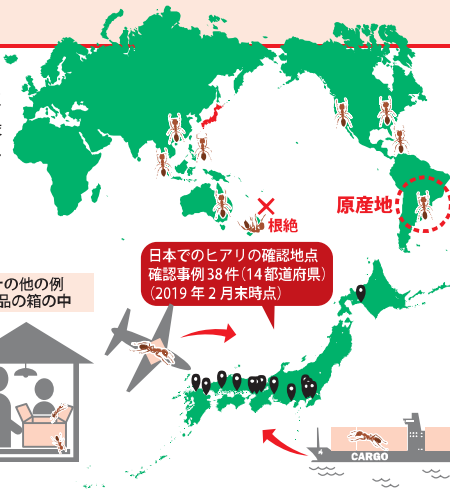


# どうして、ヒアリが日本に？

2017年6月、日本でヒアリが初めて確認されました。ヒアリは、本来、南米中部に生息するアリです。しかし、船や飛行機に積まれたコンテナや貨物にまぎれ込んで、1940年代頃からアメリカ合衆国やカリブ諸島に次々と侵入し、2000年代には原産地から遠く離れたオーストラリア、ニュージーランド、中国、台湾でも発見されるようになりました。日本へも同じような経路で海外からやってきたと考えられます。国内では、次のような場所で確認されています。



## いったん繁殖してしまうと、根絶はきわめて困難です！

ヒアリが侵入した国では、莫大な費用をかけて駆除を行っていますが、ニュージーランドを除いて根絶には至っていません。ニュージーランドは、侵入初期に徹底した対処を行ったため、唯一根絶に成功しています。また、根絶後も再び侵入しないよう警戒を続けています。日本では、国が関係機関と連携して主要港湾等で定期的に入侵状況の調査を実施し、発見された際には緊急駆除とモニタリング（継続的な監視調査）を行っています。

**早期発見  
早期防除  
が重要！**

## 海外では、こんな場所に巣をつくっています。

ヒアリは、日当たりの良い開放的な場所を好んで巣をつくります。海外の定着国では以下のような場所で見られます。



ヒアリは、大きな「アリ塚」をつくります。アリ塚は地中で深く広くひろがっていて、放射状に地下トンネルが十数メートル先まで伸びています。迷宮状にたくさんの部屋があり、女王アリと数千から数十万匹もの働きアリが集団で生活しています。

初期のアリ塚  
他のアリの巣と区別しにくい

やや発達したアリ塚

大きく発達したアリ塚  
最大60cmの高さになることも！

### 注意

アリ塚が大きく目立つようになるまでには2〜3年かかります。その間に、ヒアリはどんどん増えたり拡がったりして、時間が経つほど根絶することは難しくなります。大きなアリ塚を目印にヒアリを見つけようとするのではなく、そうなる前に発見して駆除することが大切です。

女王アリは巣に異変を感じると、トンネルを通過して外へ逃げ出し、別の場所に新たに巣をつくってしまいます。

女王アリの寿命は6-7年程度で、毎年、25万個もの卵を産みます。

巣の中では、たくさんの働きアリが、女王アリの産んだ卵や幼虫の世話をしています。

# ヒアリって、どんなアリ？ 外来生物法により特定外来生物に指定されています



和名 **ヒアリ** (別名アカヒアリ)  
 英名 **Red imported fire ant**  
 学名 **Solenopsis invicta**



働きアリ 体長 2.5 ~ 6 mm 程度	女王アリ 体長 7 ~ 8 mm 程度	雄アリ 体長 5 ~ 6 mm 程度
一番数が多く、刺すアリです。	羽化した時には翅がありますが、交尾後は翅を落とします。	体は黒っぽく、翅があります。交尾のため巣立ち、数日で寿命を迎えます。

**ヒアリの仲間「アカカミアリ」**  
 ヒアリとよく似たアリにアカカミアリがあります。ヒアリほど毒は強くありませんが、アカカミアリも特定外来生物に指定されていて、注意が必要なアリです。

**※特定外来生物** 外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすものや、及ぼすおそれがあるものなから外来生物法に基づき国が指定した生物。飼育・運搬・保管・輸入・譲渡等が規制されています。

### 間違えやすい種類

**第1位 キイロシリアゲアリの女王**  
 9月頃、オレンジ色の女王アリが巣づくりのため外に出てきて、目につきやすいので、「ヒアリではないか？」との問い合わせの多いアリです。

**第2位 アリゲモ類**  
 アリゲモ 体長 5 ~ 7 mm のとても小さなクモです。「見慣れないアリ」と思われるため、よく間違われます。

ヤガタアリゲモ

## 定着すると、私たちの暮らしにもさまざまな影響があります！

**◆人やペットへの健康被害**  
 刺されると強い痛みが生じ、体質等によっては強いアレルギー反応（アナフィラキシーショック）を起こすおそれがあります。\*詳しくは裏面  
 犬や猫などのペットも、刺されると人と同じように、重い症状を起こすことがあります。

**◆生活への影響**  
 お花見やピクニック、BBQ、花火大会など、公園や河川敷でのレジャーを安心して楽しむことができなくなるかもしれません。ガーデニング、家庭菜園にも支障が出ます。

**◆電気設備・インフラ被害**  
 電気設備（配電盤や変圧器、機械の内部）に巣をつくり、信号機や空港の着陸灯を故障させたりします。また、電線をかじって停電を引き起こしたり、ショートさせて火災の原因となることもあります。

**◆農業被害・産業への影響**  
 農作物をかじって品質や収量を低下させたり、家畜を襲ったりします。また農作業をする人が頻繁に刺されるため、海外では耕作放棄や離農者が増えるなどの影響が出ています。輸入された商品などにヒアリが混入すると、物流にも大きな支障が出ます。

**◆生態系被害**  
 日本の在来アリを駆逐したり、小動物を捕食して減少させ、生態系のバランスを壊してしまいます。海外では希少種にも影響が出ています。